

SEIKO

KINETIC · A G S

スポーツ スキューバマスター

5M45

**取扱説明書
INSTRUCTION**

このたびはセイコースポーツスキューバマスターをお買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご愛用くださいますようお願い申し上げます。なおこの取扱説明書はお手もとに保存し、必要に応じてご覧ください

 警告

取扱いを誤った場合に、重傷を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示しています。

 注意

取扱いを誤った場合に、軽傷を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示しています。

■ご使用の前に必ずお読みいただきたいこと

⚠ 警告

- ・本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。
- ・ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。(空気ポンプを使用する潜水用)

⚠ 注意

- ・ダイバーズウォッチのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、それに従ったルールを守ってご使用ください。
- ・この時計を実際のダイビングに使用される時には、毎回のご使用前に正しく作動しているか、点検をしていただくと共に、使用中操作については操作方法の項目に記載されている注意事項をよくお読みください。

目 次

■製品の特長	4
■ダイビングに際しての注意事項	5
■ご使用にあたって	6
■時刻の合わせかた	9
■日付けの合わせかた	13
■時差修正の使いかた	15
■都市と時差の比較表	17
■回転ベゼルの使いかた	18
■使用電源（キャパシタ）についてのご注意	19
■使用上の注意とお手入れの方法	20
■「ルミブライト」について	23
■こんな時には	24
■ダイバーアジャスターの操作	26
■アフターサービスについて	27
■補修用性能部品について	27
■製品仕様	28

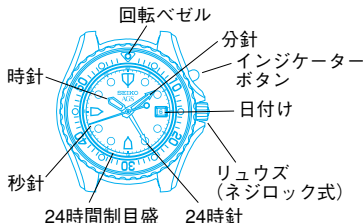
■製品の特長

一般のクォーツ腕時計はボタン電池で動きますが、セイコースキューバマスター5M45は"時計を振る"ことによって内蔵された発電機が回され、発電した電気をコンデンサーに蓄えて時計を動かすというSEIKO独自の機構（AGS）をもつダイバースウオッチです。従って、電池交換の必要はありません。

あと何日動くかを針の動きでお知らせするインジケーター機能付きです。フル充電で約7日間以上動き続けます。

また、この時計には24時針と時針単独修正機能とがついていますので、デュアルタイム表示として、また海外旅行中などの時差修正とホームタイム表示としてもご使用できます。

一般のクォーツ時計とは違い、海外旅行中の電池寿命切れを気にすること無くご使用いただけます。



⚠ 注意

- あなたの腕の動きを電気に変換して蓄える方式です。静止したままでは充電されません。
- 目安として1日10時間以上の携帯をおすすめします。
- 充電量が残りが少なくなると、秒針が1度に2目盛ずつ運針（以下の説明では〈2秒運針〉と表現します）してお知らせします。2秒運針になってから約6時間以内に止まる可能性がありますので、6ページ「●充電のしかた」をよくお読みになって充電をしてください。

■ダイビングに際しての注意事項※必ずお読みください

この項目では、ダイビングの前、中、後での注意事項を記述してあります。それぞれの注意事項を守り、より安全なダイビングを心がけてください。

尚、この注意事項は後で述べる説明を十分理解しないと分からないものもありますので、理解できない項目についてはそれぞれの説明をよく読むことが必要です。

ダイビング前

- 時計が正常に作動しているか、バンド、ガラスに傷・ひび等がないか、バンドがケースに確実に固定されているか、チェックしてください。

チェックのポイントは？

- ①時刻を正しく示しているか？
- ②秒針が「2秒運針」をしていないか？
- ③回転ベゼルが正しくセットできるか？
- 充電量(持続時間)が十分かどうか。2日以上インジケータ表示をするか？不足の場合は充電をしてください(→6ページ「●充電のしかた」を参照)
- リュウズのネジロックが確実にしてあるか確かめてください。

※これらに異常が認められる場合は、ダイビングには使用しないでください。

ダイビング中

- 岩などの硬いものにぶつけないように注意してください。
- 水中ではリュウズのネジロックをゆるめることや、リュウズを引き出すことは絶対しないでください。

- ダイビング中においても、インジケーターボタンを押して充電量の確認ができます。このとき秒針は充電量を示すため、一時的に早送りし、その位置にとどまることになります。一見時計が止まったかのように見えますのでご注意ください。

ダイビング後

- ゴミ・砂・海水等を真水でよく洗い流してください。
- 時計を洗ったあとはよく拭いてください。
- 洗い流せない場合は、お買い上げ店、またはセイコー取扱店にご相談ください。
- 時計本体がガソリン・アルコールなどの薬品に触れると、故障の原因になりますのでご注意ください。

■ご使用にあたって

- 充電のしかた（止まっている時計を動かすには）
①時計を右の図のように矢印の方向に振ってください。1秒間に2往復のリズムで、約100回（往復）振ってください。約6時間分の蓄えができたことになります。この時、秒針の動きは2秒運針から通常の1秒運針になります。

※ 1秒間に2往復程度の早さで、約20cm位の距離を往復させる様に振っていただくことが最も効率的です。

※ 極端に早く激しく振っても効率の良い充電はできません。

※ 発電機を回す回転錘の音が聞こえますが異常ではありません。



- ②さらに振り続けて2日分程度の充電をしてから携帯することをおすすめします。この時計はフル充電で約「7日」以上の充電量を得られますが、初めにフル充電にさせていただく必要はありません。

1日の充電量を確保するためには約200～250回（往復）が必要です。

※蓄えられた充電量はインジケーターで調べることができます。（→この下「インジケーターの使いかた」を参照）

※手振りによる充電の直後はインジケーターの示す充電量が若干ばらつく場合があります。

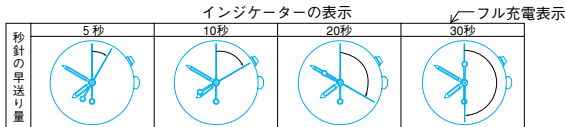
※フル充電状態からさらに充電しても過充電防止回路が働きますので、安心してお使いいただけます。

●充電量を調べるには？（インジケーターの使いかた）

- ・発電し蓄えられた充電量を調べることができます。
- ・今からどのくらい動き続けるか（持続時間）が分かります。
- ・ボタンを押すと運針中の秒針が早送りし、その早送りする秒数で持続時間を示します。
- ・携帯中に充電状態を確認する時や腕から外しておく時など、後どのくらい動き続けるかを確認できます。

〈インジケーターが表示する意味〉

インジケーターはキャパシタに蓄えられた充電量を調べ、4段階の表示で示します。段階的で幅をもった表示のため時計が動きつづける時間を細かくは表示できません。



充電量 約6時間～約2日間～約4日間～約7日間～約14日間※
（持続時間）

〈例〉インジケーターの表示が「20秒」を示した場合は、約4日間～約7日間の持続時間があるという意味になります。約4日間以上の持続時間はあることとなりますが、4日ちょうどなのか5、6、7日のどの程度かはわかりません。

※インジケーターで示す持続時間は目安としてお使いください。インジケーターの表示が実際の持続時間と異なる場合があります。

※早送り後、秒針はその位置にとどまり、その後は正確な時刻を示します。

※インジケーターは2回まで続けてご使用できます。つまり、秒針が充電量を示し、一時的に留まっている最中にもう一度ボタンを押すと、再び秒針が早送りをします。よって「10秒」の表示をした場合は、1回目と2回目とで20秒分早送りすることになります。充電量はあくまでも「10秒表示」分の意味です。もう一度確認する場合は、秒針が通常運針になってからボタンを押してください。

※2秒運針時は、インジケーター機能はありません。

※フル充電表示（インジケーター30秒表示）について

- ・インジケーターの30秒表示はフル充電の意味になります。上記のように約7日間以上の充電量が確保できたということです。
- ・充電量として約7日間～約14日間と幅がありますが、その中のどのくらいかはわかりません。
- ・最大に充電できた場合は、約14日間（2週間）動き続けます。
- 2秒運針になったら（秒針が一度に2目盛ずつ運針する状態）
 - ・携帯中もしくは外して置いてある時計が2秒運針を始めますと、6時間以内に止まる可能性がありますので充電をしてください。（→6ページ「●充電のしかた」を参照）

※2秒運針の場合は、インジケーター機能はありません。

※2秒運針中でも時刻表示は正常です。

■時刻の合わせかた(24時針の使用用途に2つのタイプがあります)

充電して秒針が通常運針になってから「時刻合わせ」をします。(→6ページ「●充電のしかた」を参照)この時計の24時針の使いかたには、2つのタイプがあります。そのタイプによって時刻の合わせかたが異なりますので、どんな使いかたにするか選択してから時刻合わせをしてください。

〈タイプ1〉24時針を単なる24時針（午前・午後が読める）

として使用する場合。

- ・ 普通の使いかたがこのタイプになります。
- ・ たとえば、24時針を日本時間に合わせておくと、海外旅行中に旅先の時刻を時針・分針で表示しても、24時針で日本時間を見ることができ便利です。

この時の日本時間をホームタイムと呼ぶことがあり、以下の説明ではそう表現します。

〈タイプ2〉24時針に他の地域の時刻を表示させて使用する場合。

- ・ 住む場所とは異なる時刻（時差のある時刻）に合わせておき、24時針と時分針とでデュアルタイム表示として使用する場合にこのタイプを選びます。
- ・ たとえば、24時針を世界標準時(GMT)に合わせ、時分針を日本時間に合わせると、いつでも24時針でGMTを確認できることになります。



〈タイプ1の例〉

【24時針を普通の24時針として合わせる方法】〈タイプ1を選択した場合〉

①リュウズを左に回してネジロックをゆるめます。

※時計が動いていないと時刻合わせができません。充電をしてから時刻合わせをしてください。(→6ページ「●充電のしかた」を参照)

②リュウズを2段目まで引き出してください。

※秒針が止まりますので、秒針が0秒に来た時に引き出してください。

③リュウズを右に回し、24時針と分針に注目し現在時刻に合わせます。
現在時刻の午前午後に注意して合わせます。

〈例〉午前10時0分に合わせる場合は・・・

24時針を10時位置(5時方向)に分針を0分に合わせます。

午後6時0分に合わせる場合は・・・

24時針を18時位置(9時方向)に分針を0分に合わせます。

※時針が合わせる時刻と異なる時間を示している場合がありますが、24時針と分針とで合わせてください。(時針は後から合わせます。)

※この時、時針の位置によって日付けが修正される場合がありますが、これも後で合わせられますのでご安心ください。

※合わせる時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

④時報と同時にリュウズを押し込んでください。

24時針、分針、秒針の合わせができました。

⑤時針を現在時刻に合わせます。リュウズを1段目まで引き出してください。

⑥リュウズを左回転させ、現在時刻に合わせます。

☆日付けを合わせる場合は、ここで一緒に合わせてください。

(詳しくは→13ページ「■日付けの合わせかた」を参照)

※日付けが変わるところが午前0時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。

※リュウズの回転の際、時計の1時間単位の動きを確認しながら静かに回してください。

※時計を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

⑦合わせ終わったらリュウズを押し込んでください。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

このタイプでの時刻合わせができました。海外旅行中などで時計を単独に修正(時差修正)したときは、24時針がホームタイムとして機能を果たすので便利です。(→15ページ「**■**時差修正の使いかた」を参照)

【24時針を他の地域の時刻24時針として合わせる方法】

〈タイプ2を選択した場合〉

〈例として24時針でGMTを表示し、時分針で日本時間を表示させる方法で説明します〉

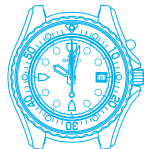
①リュウズを左に回してネジロックをゆるめます。

※時計が動いていないと時刻合わせができません。充電をしてから時刻合わせをしてください。

②リュウズを2段目まで引き出してください。

※秒針が止まりますので、秒針が0秒に来た時に引き出してください。

③リュウズを右に回し、24時針と分針に注目し合わせたい「他の地域」の時刻に合わせます。午前午後に注意して合わせます。時差については事前に調べておきましょう。(→17ページ「**■**都市と時差の比較表」を参照)



〈タイプ2の例〉

〈例〉世界標準時（GMT）に合わせる場合

日本時間午前10時0分の場合、GMTは午前1時0分なります。

24時針を午前1時に合わせる場合は、

- ・24時針を1時位置（12時と1時の間）に、分針を0分に合わせます。

※時針が合わせる時刻と異なる時間を示している場合がありますが、24時針と分針とで合わせてください。（時針は後から合わせます。）

※この時、時針の位置によって日付けが修正される場合がありますが、これも後で合わせられますのでご安心ください。

※合わせる時刻より4～5分進めてから逆に戻して合わせてください。

④時報と同時にリュウズを押し込んでください。

24時針、分針、秒針の合わせができました。

⑤時針を現在時刻（日本時間）に合わせます。リュウズを1段目まで引き出してください。

⑥リュウズを左回転させ、現在時刻に合わせます。

☆日付けを合わせる場合は、ここで一緒に合わせてください。

（詳しくは→13ページ「**■**日付けの合わせかた」を参照）

※日付けが変わるところが午前0時ですので、午前午後を間違いなく合わせてください。

※リュウズの回転の際、時針の1時間単位の動きを確認しながら静かに回してください。

※時針を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

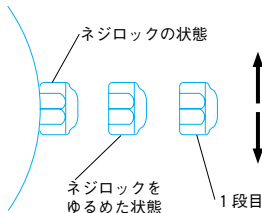
- ⑦合わせ終わったらリュウズを押し込んでください。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

このタイプでの時刻合わせができました。時分針で現在時刻を見ながら、24時針で特定の地域の時刻をいつでも確認でき、便利です。24時針に表示させる時刻を変更する場合は、このタイプの操作①からあらためて行ってください。世界各地の時差については17ページ「**■都市と時差の比較表**」を参照ください。

■日付けの合わせかた

- この時計の日付けの修正は、時差修正の方法で時針を2周させて1日分の日付け修正を行います。（15ページ「**■時差修正の使い方**」を参照ください。）
- 時針を時計回りに2周させると「日を送る」こととなり、逆回転させると「日に戻す」ことができます。
- 時刻合わせの後の日付け合わせや、前月が小の月（1ヶ月の日数が30日の月と2月）である場合の月初の日付けの修正のとき行ってください。

- ①リュウズを左に回してネジロックをゆるめます。
- ②リュウズを1段目まで引き出してください。
- ③リュウズを回転させ時計を2周させる毎に、日付けが「1日分」修正できます。



右回転：時計は時計回りと逆方向に回転し、時計を2周させると日付けが1日戻ります。

左回転：時計は時計回りに回転し、時計を2周させると日付けが1日進みます。

※日付けはどちらの方法で修正してもかまいません。日付け修正が少ない方向を選択してください。

※リュウズの回転は静かに行ってください。

※2周単位で時計を回転させると、時刻を変えることなく日付の修正ができます。

※時計を修正している時、その他の針が少し動きますが故障ではありません。

- ④日付け合わせが終わったら、時計の位置を再度確認してリュウズを押し込んでください。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

■時差修正の使いかた

- ・海外旅行等で時差のある地域へ移動した場合、時計を止めることなく現地の時刻に合わせられます。
- ・この修正は、日付けに連動していますので、時差の修正を行うと現地の日付けを表示させることができます。

【時差の求めかた】

- ・時差修正の前に、修正する「時差」を正確に知っておくことが重要です。
- ・単に時計の表示を現地の時刻に合わせるだけでは、午前と午後および日付けが合わない場合もあるので正しい時差を求める必要があります。

〈計算方法〉

A地域にいる人がB地域へ移動したとすると、それぞれの地域のGMTからの時差の数値を使い計算します。(17ページ「■都市と時差の比較表」参照)

- ・A地域のGMTからの時差を〔a〕、B地域のGMTからの時差を〔b〕とした場合、修正すべき時差は、
〔b〕－〔a〕で求められます。

《例》日本からアメリカのニューヨークへ移動した場合、

A地域日本（東京）のGMTからの時差〔a〕＝（＋9）

B地域ニューヨークのGMTからの時差〔b〕＝（－5）

◎修正すべき時差＝

〔b〕－〔a〕＝（－5）－（＋9）＝（－14）時間

※サマータイムを使う地域では、GMTからの時差の数値を「＋1」時間して計算します。

〈時差修正のしかた〉

15ページ【時差の求めかた】で計算した値などで時差修正します。

- ①リュウズを左に回してネジロックをゆるめます。
- ②リュウズを1段目まで引き出してください。
- ③リュウズを回転して時差修正をします。1時間単位の進みかたを確認しながら回してください。



※時差修正はどちらの方法で修正してもかまいません。時差修正が少ない方向を選択して下さい。

※時差修正をするときには、午前・午後および日付け等にご注意ください。

※リュウズの回転は静かに行ってください。

※時計を修正している時、その他の針が少し動きますが、故障ではありません。

※右回転で時差修正をしてAM0:00を通過してPM9:00～AM0:00付近に合わせる場合は一旦PM8:00まで戻し合わせてください。

- ④時差修正が終わったら、リュウズを押し込んで下さい。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

■都市と時差の比較表

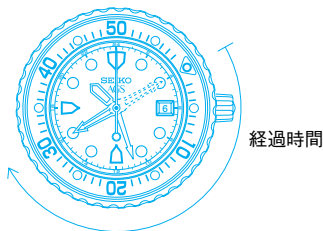
GMTは、グリニッチ標準時を示しています。十はGMTより進み、一は遅れを示しています。

GMTとの時差	都 市 名	サマータイム有	その他の都市（●印はサマータイム有）
0	LONDON ロンドン	●	カサブランカ、ダカール
＋1	PARIS パリ	●	●アムステルダム、●フランクフルト
	ROME ローマ		●ベルリン
＋2	CAIRO カイロ	●	●アテネ、●イスタンブール、●キエフ、ケープタウン、トリポリ
＋3	MOSCOW モスクワ	●	メッカ、ナイロビ
＋4	DUBAI デュバイ		
＋5	KARACHI カラチ		●タシケント
＋6	DACCA ダッカ		
＋7	BANGKOK バンコック		ブノンベン、ジャカルタ
＋8	HONG KONG ホンコン		マニラ、北京、シンガポール
＋9	TOKYO 東京		ソウル、平壤
＋10	SYDNEY シドニー	●	グアム島、●ハバロフスク
＋11	NOUMEAヌメア(ニューカレドニア)		ソロモン諸島
＋12	WELLINGTON ウェリントン	●	フィジー諸島、●オークランド
－11	MIDWAY ミッドウェイ		
－10	HONOLULU ホノルル		
－9	ANCHORAGE アンカレッジ	●	
－8	LOS ANGELES ロサンゼルス	●	●サンフランシスコ、●バンクーバー、●ドーソン（カナダ）
－7	DENVER デンバー	●	●エドモントン（カナダ）
－6	CHICAGO シカゴ	●	●メキシコシティ
－5	NEW YORK ニューヨーク	●	●ワシントンDC、●モントリオール
－4	CARACAS カラカス		●サンチャゴ（チリ）
－3	RIO DE JANEIRO リオデジャネイロ	●	●ブエノスアイレス

※）サマータイムの各都市における採用は、年毎に変わる可能性がありますのでご注意ください。
この表は1992年8月時点の採用状況に基づいて作成してあります。

■回転ベゼルの使いかた

下図は10時10分潜水開始（ 位置）後、30分経過したことを示しています。



●経過時間の測定

回転ベゼルを動かし  マークを分針に合わせてください。ある時間が経過した後に、分針の指す回転ベゼル上の目盛を読めば、その時までの経過時間がわかります。

※回転ベゼルは、時計と逆まわりしか回転しませんので、無理に時計と同じ方向にまわさないでください。また、1分単位のクリック装置がついていますので、目盛のセットがしやすいと同時にショックなどで不用意に回転することを防ぎます。

■使用電源(キャパシタ)についてのご注意

- この時計は一般の電池の代わりに専用のキャパシタを電源として使用していますので、電池交換は不要です。
- 時計を保管する際、リュウズを2段引いて運針を止めても、IC制御の電流が消費されるため、持続時間の維持はできませんのでご注意ください。

⚠ 注意

破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、一般の銀電池は絶対に組み込まないようご注意ください。



注意

日常のお手入れ

- ・ダイビングなど海水中での使用のあとは、真水で洗い、よくふいてください。
- ・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておくとサビて衣類の袖口を汚したり、かぶれの原因になることがありますので常に清潔にしてください。
- ・時計を外したときは、柔らかい布などで汗や水分をふきとるだけで汚れやケース、バンド、及びバック金の寿命が違ってきます。
- ・回転ベゼル下に汚れ等がたまり回転が重くなる場合がありますので、清潔にご使用ください。

〈軟質プラスチックバンド〉

- ・ウレタンバンド等軟質プラスチックでできているバンドは、特に手入れの必要はありませんが汚れがひどいときには石鹸水で洗ってください。化学製品ですので溶剤によって変質することがあります。通常数年のご使用で材質が硬化してきたり、色があせたりする場合がありますので、その際は新しいバンドに交換してください。

かぶれやアレルギーについて

- ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。
- ・かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。
- ・かぶれの原因として考えられますのは、
 1. 金属・皮革に対するアレルギー
 2. 時計本体及びバンドに発生した錆、汚れ、付着した汗等です。
- ・万一肌などに異常を生じた場合は、直ちに使用を中止し、医師にご相談ください。

保管について

- ・「 -10°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ からはずれた温度」下では機能が低下したり停止したりする場合があります。
- ・磁気や静電気の影響があるところに放置しないでください。
- ・極端にホコリの多いところに放置しないでください。
- ・強い振動のあるところでの使用あるいは、保管をしないでください。
- ・薬品の蒸気が発散しているところや薬品にふれるところに放置しないでください。
薬品の例：ヨウ素系消毒液、水銀、ベンジン、シンナー、などの有機溶剤およびそれらを含むもの（ガソリン、マニキュア、化粧品などのスプレー液、クリーナー剤、トイレ用洗剤、接着剤など）
- ・温泉や防虫剤の入ったひきだしなど特殊な環境に放置しないでください。

その他、携帯上ご注意いただきたいこと

- ・バンド着脱の際に中留などで爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- ・転倒時や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬケガを負う場合がありますのでご注意ください。
- ・特に乳幼児を抱いたりする場合は、時計に触れることでケガを負ったり、アレルギーによるかぶれをおこしたりする場合がありますので十分ご注意ください。

定期点検について

ながくご愛用いただくために、2～3年に一度程度の点検調整をおすすめします。定期的な点検により目に見えない部分が原因となる損傷を未然に防ぎ、より安心してご使用いただけます。点検の受付けはお買い上げ店またはセイコー取扱店でいたしますが、点検作業はすべてセイコーサービスセンターで行います。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。部品交換の時は「セイコー純正部品」とご指定ください。ウレタンバンドは材質の特性上、弾力性が失われ硬化してくることがあります。お買い上げ店、またはセイコー取扱店で交換用のバンドをご用命ください。

■ 「ルミブライト」について

「ルミブライト」は、放射能等の有害物質を全く含んでいない、環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）物質です。」

ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間（約10分間：500ルクス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約3～5時間）光を放つ夜光です。

なお、蓄えた光を発光させていますので輝度（明るさ）は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。特に暗い環境での潜水の際は、光が十分に吸収されていないと水中で発光しない場合があります。最低でも上記条件の光をあてるか、水中ライトを併用して潜水される様、十分ご注意ください。

〈照度データ〉（目安値）

①太陽光〔晴天〕100,000ルクス〔曇天〕10,000ルクス

②屋内（昼間窓際）〔晴天〕3,000ルクス以上

〔曇天〕1,000～3,000ルクス〔雨天〕1,000ルクス以下

③照明（白色蛍光灯40Wの下で）〔1 m〕1,000ルクス

〔3 m〕500ルクス（通常室内レベル）〔4 m〕250ルクス

■こんな時には

現象	考えられる原因
時計が止まった	充電した電気エネルギーがなくなった
時計が遅れる	寒いところ、または、暑いところへ放置した
ガラスのくもりが消えない	パッキンの劣化などにより時計内部に水分が入った
秒針が2秒運針をしている	充電した電気エネルギーが残り少なくなった
毎日携帯しているのに、インジケータの表示が10秒以上にならない	1日の携帯時間がやや短いか、腕をほとんど動かさない行動である
回転ベゼルがスムーズに回らない	砂やゴミが回転ベゼルのすき間に入ってしまった

このようにしてください

6 ページの「●充電のしかた」を参照し充電してください。

常温に戻れば正常な状態に戻ります。時刻を合わせ直してください。(9 ページ参照)

お買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。

6 時間以内に止まる可能性がありますので、6 ページの「●充電のしかた」を参照し充電してください。

なるべく長く携帯してください。1 日10時間を目安に約 1 週間以上の携帯をお願いします。

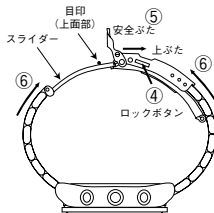
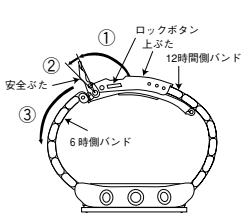
インジケーター表示で20～30秒分の充電量が確保できると思われます。

水洗いしても良くならない場合は、お買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。

■ダイバーアジャスターの操作

バンドの長さを簡単に調整する機構です。ウェットスーツの上に着用する際などにお役立て下さい。

- ①安全ぶたを90度程度に起こします。
- ②安全ぶたをさらに20度程度倒します。多少抵抗がありますが、軽い力で倒れますので力を入れ過ぎないようにご注意ください。
- ③②の動作の後、6時側のバンドをバンドカーブに沿う方向に（曲線を描くように）引きます。この際も軽い力で引けますので、力を入れ過ぎないようにしてください。スライダーは約30mm伸びますが、上面の「目印」以上には引き出さないようにご注意ください。
- ④矢印のロックボタンを押してから、上ぶたを持ち上げ、バックルを開放します。この状態で手首につけてください。
- ⑤手首につけたら上ぶた、安全ぶたの順に閉じてください。
- ⑥時計をつけていない方で、バンドを適当なところまで縮めてください。



■アフターサービスについて

- ・ 万一故障した場合には、お買上げ店にお持ちください。保証期間内の場合は保証書を添えてください。
- ・ 修理期間経過後の修理およびこの時計についてのご相談はお買上げ店でうけたまわっております。なお、ご不明の点は巻末の「服部セイコーお客様相談室」または「セイコーサービスセンターお客様相談係」へお問い合わせください。
- ・ 保証内容は保証書に記載したとおりですので、よくお読みいただき大切に保管してください。

■補修用性能部品について

- ・ この時計の補修用性能部品の保有期間は通常7年間を基準としています。
正常なご使用であれば、この期間中は原則として修理可能です。
(補修用性能部品とは、時計の機能を維持するのに不可欠な修理用部品です)
- ・ 修理可能な期間はご使用条件によりいちじるしく異なり、精度が元通りにならない場合もありますので、修理ご依頼の際にお買上げ店とよくご相談ください。
- ・ 修理のとき、ケース・文字板・針・ガラス・バンドなどは一部代替品を使用させていただくことがありますのでご了承ください。

■製品仕様

1. 水晶振動数・・・32,768Hz (Hz＝1 秒間の振動数)
2. 携帯精度・・・・・・平均月差±15秒以内
・・・・・・・・・・・・・・・・〔気温5℃～35℃において腕につけた場合〕
3. 作動温度範囲・・・－10℃～＋60℃
4. 駆動方式・・・・・・ステップモーター式
5. 使用電源・・・・・・小型キャパシタ　1 個
6. 駆動持続時間・・・フル充電(インジケータ－30秒表示) から止まり
：約 7 日間以上
2 秒運針になってから止まりまで
：約 6 時間
7. 充電量表示機能つき (インジケータ－)
8. 電子回路・・・・・・発振・分周・駆動・充電制御回路 (C－MOS－IC)・・・・1 個
9. 発電システム・・・小型交流発電機
10. 耐磁性能・・・・・・JIS1種耐磁時計 (4800 A／m (60ガウス))
11. 防水性能・・・・・・200m空気潜水用防水 (JIS1種潜水時計200m)

※上記の製品仕様は改良のため予告なく、変更することがあります。